

I 概要

(1) 紹介

下野市は、平成18年1月10日、河内郡南河内町、下都賀郡石橋町と同国分寺町が合併して誕生しました。

栃木県の中南部に位置し、都心から約85km圏にあり、首都圏の一端を構成しています。南北約15.2km、東西約11.5kmで、北は県都宇都宮市、南は小山市、東は真岡市と上三川町、西は栃木市と壬生町に接し、面積は74.59km²です。

東に鬼怒川と田川、西に思川と姿川が南流し、地形はわずかな高低差で自然災害が少なく、古来より豊穡の地として多くの人々が暮らした地域です。

江戸時代の日光街道沿いには宿場町の景観や田園風景が残り、市内にはJR線の駅が3つあります。利便性が高いことから、高度先進医療技術を有する自治医科大学附属病院を中心に市街地が形成されています。

白鳳時代（7世紀後半）には大宝律令選定に関与した下毛野朝臣古麻呂一族の氏寺として下野薬師寺が建立され、奈良時代には国の寺として、東国随一の規模を誇ったと史料に残されています。

8世紀には聖武天皇の詔により下野国分寺・国分尼寺が建立され、古代東国における仏教文化の中心地として栄えた歴史があり、下野市の名称の由来となっています。



市の木「けやき」



市の鳥「うぐいす」



市の花「ゆうがお」

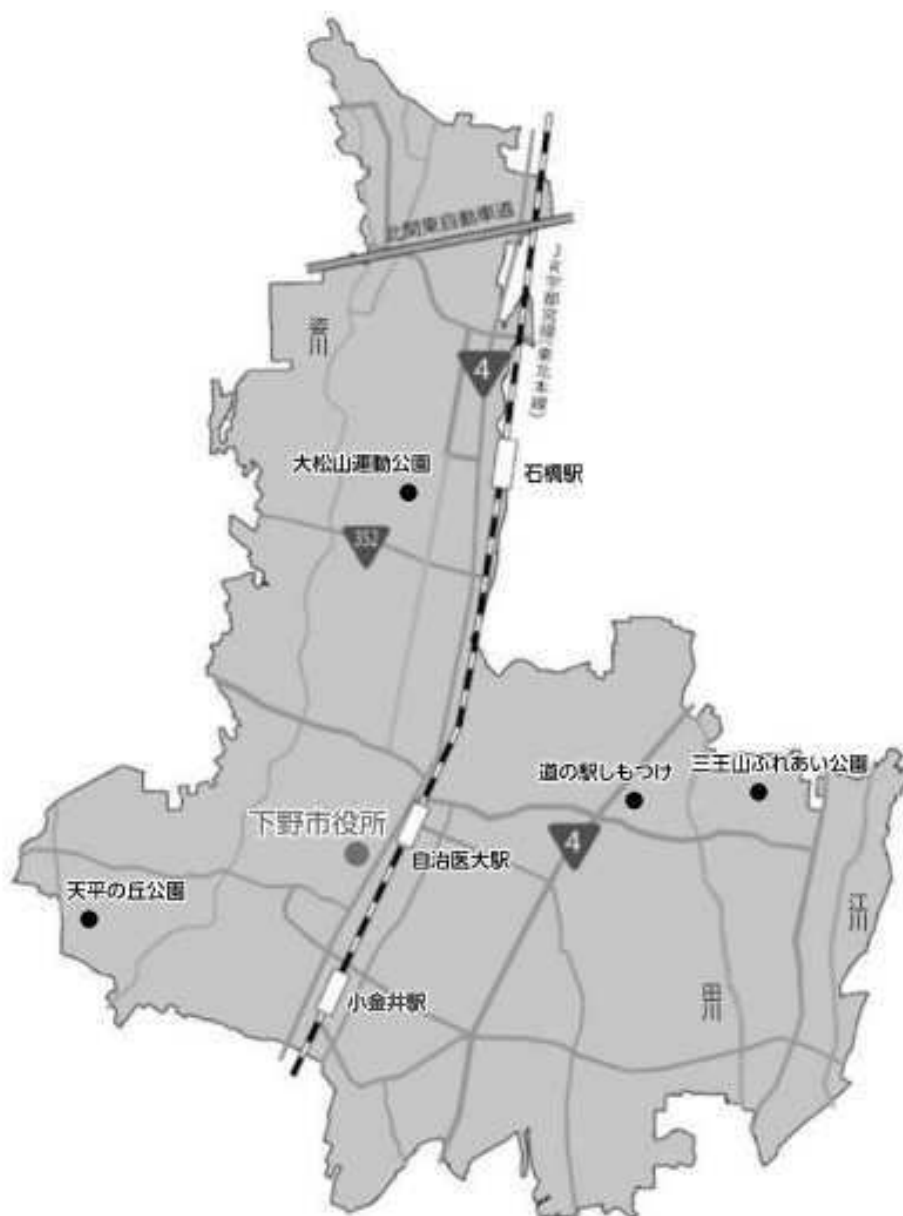


下野国分寺及び七重塔イメージ画像



下野薬師寺復元回廊

(2) 市全体図



(3) 面積

用途別面積

単位：km²

	面積	田	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他
下野市	74.59	23.76	16.03	13.92	0.06	3.71	0.00	0.15	3.45	13.61

資料：栃木県統計年鑑（令和3年1月1日現在）

